

## 木津川運動公園(北側区域)の方向性(修正案)

### 1. 第1回懇話会意見への対応

1. 1 周辺地域の人口構造を踏まえた方向性
1. 2 周辺土地利用計画を見込んだ方向性
1. 3 周辺公園の需要状況を踏まえた方向性
1. 4 公園(南側区域)の利用者や活動団体との連携
1. 5 運動や予防医療に関する方向性
1. 6 ICTやIoTの活用の方向性
1. 7 その他具体的な導入機能に関する意見
1. 8 ベースとする公園の方向性

### 2. 木津川運動公園(北側区域)の方向性(修正案)

# 1. 第1回懇話会意見への対応

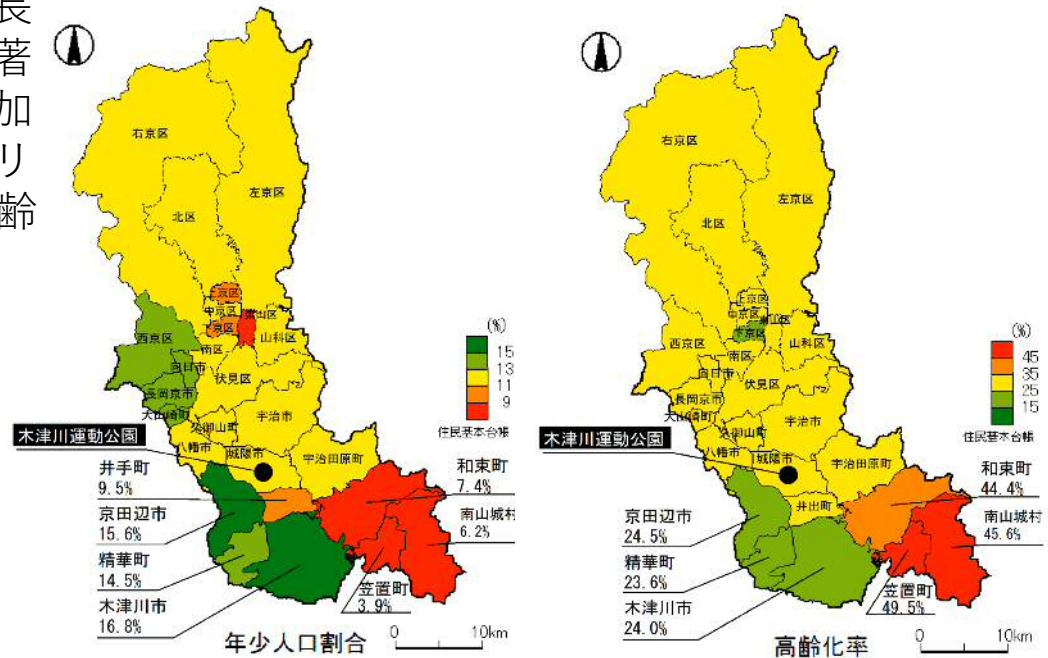
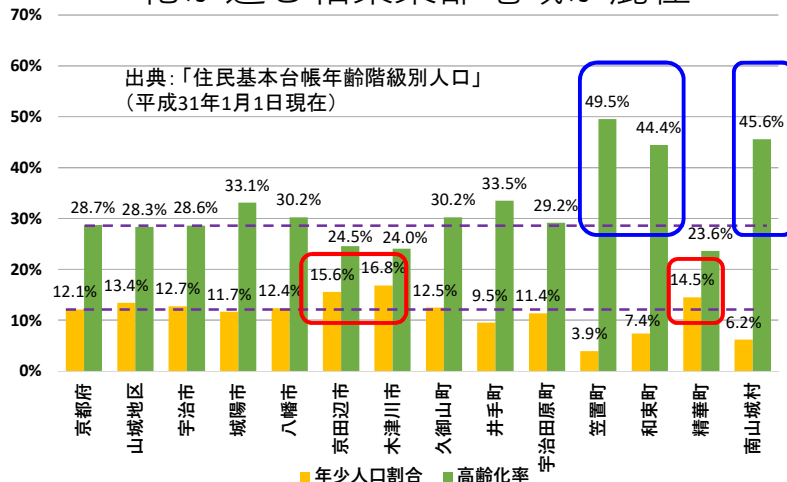
## 1. 1 周辺地域の人口構造を踏まえた方向性

### 第1回懇話会での意見

本公園の目標が、子育て層と高齢者層の両方の支援にあるとするなら、人口構造のより詳細な整理が必要である。

### 現状(2019年1月1日)

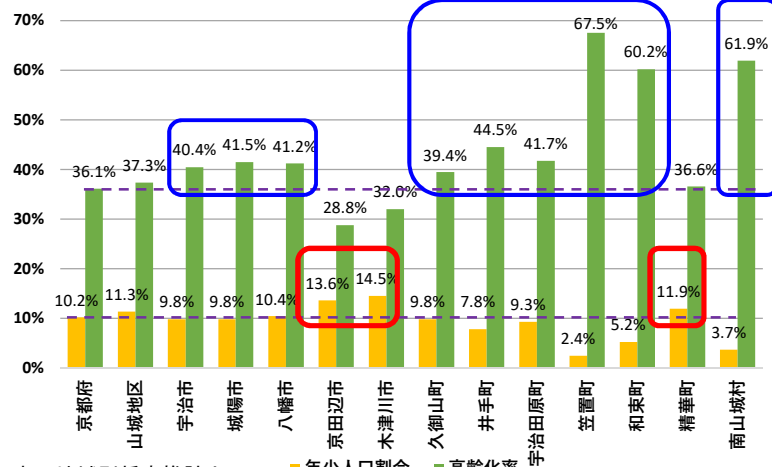
- 山城地域の人口は、これまで高度成長期からの人口流入で北中部を中心に著しく増加、近年では学研エリアで増加
- 今後も人口増加が見込まれる学研エリアと、高齢化率50%に迫り過疎・高齢化が進む相楽東部地域が混在



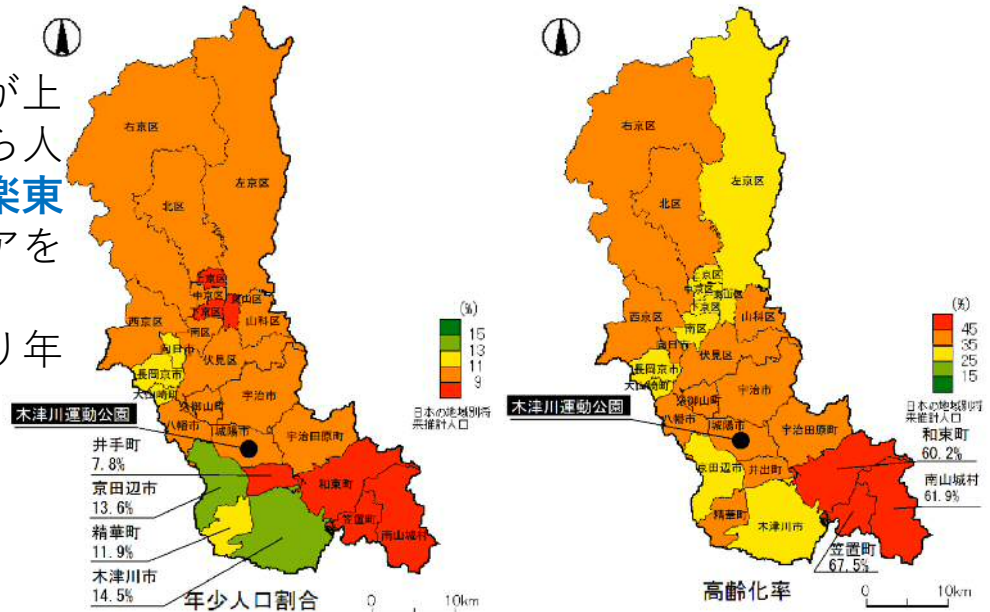
木津川運動公園(南側区域)の居住地域圏(約9割)

将来(2040年)

- 将来(2040年)では、京都府の高齢化率が上昇するが、特に**山城地域では、早くから人口流入した北中部で高齢化が進行、相楽東部では更に高齢化が進行**し、学研エリアを除き、府内平均に比べて高い。
- 学研エリアで依然として、府内全体より年少人口割合が高い。



出典:「日本の地域別将来推計人口」 年少人口割合 ■ 高齢化率  
(国立社会保障・人口問題研究所,平成30年12月25日)



木津川運動公園(南側区域)の居住地域圏(約9割)

意見を踏まえた公園の方向性

本公園の利用圏域である山城地域の現状は、年少人口割合が高い地域と高齢化率が高い地域が混在しており、**子育て支援と健康長寿の両側面に寄与できる公園とすることが肝要。**

1. 2 周辺土地利用計画を見込んだ方向性

第1回懇話会での意見

- 未買収地も含めて周辺に多くの商業施設が入って来たときに、公園との関係性が成立するかどうか、周辺の土地利用との関係の中で、この公園をしっかりと位置付けしておくことが重要である。

周辺土地利用計画

- 東部丘陵地は、新名神高速道路や東部丘陵線の供用なども踏まえ、段階的な整備を推進する。

第Ⅰ期

先行整備エリア:商業・物流ゾーン

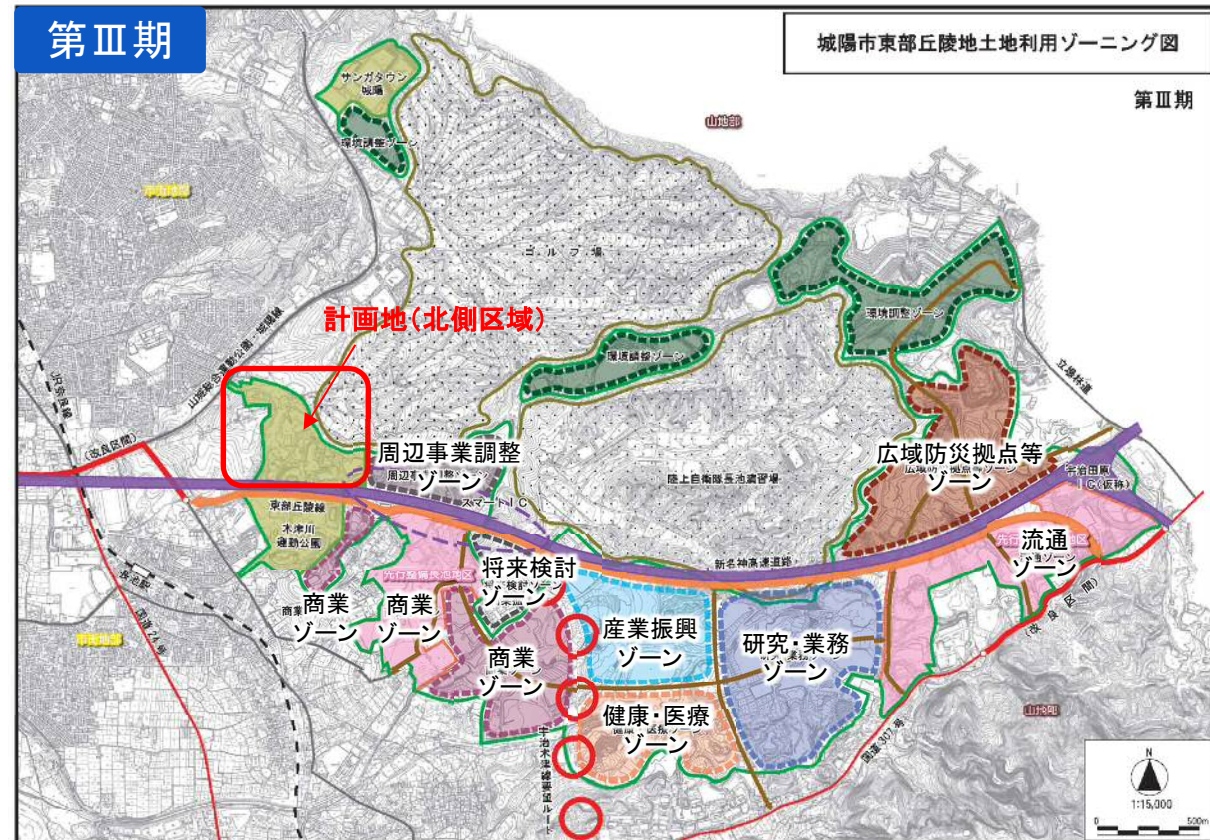
第Ⅱ期

中間エリア(商業・産業振興・研究・業務ゾーン)

第Ⅲ期

中間エリア(健康・医療ゾーン)

- 木津川運動公園は、東部丘陵地において、**地区の玄関口であり、まとまった緑やオープンスペースを有する地区**となる。



出典:「城陽市東部丘陵地整備計画【見直し版】」(城陽市,平成28年5月)

## 意見を踏まえた公園の方向性

新たなまちづくりが進められつつある東部丘陵地区の玄関口として、**導入施設や公園が有する緑やオープンスペースを活かし、商業や産業振興、健康・医療、研究・業務などの多様な機能との交流の拠点**として位置付ける。

- **地域の文化、名所、産業、特産物などを活用・紹介したサービスの提供**
- アウトレットモールや地域の商業施設と連携し、公園のオープンスペースを活用した**イベントや屋外型アミューズメント**の実施
- 地域の産業振興と連携し、公園のオープンスペースを活用した**青空市場、地域マルシェ、行催事**の開催
- 医療機関や研究機関と連携し、**公園を通じた健康づくり、緑の効用を活用した医療福祉の取組**（セラピーフィールド）を推進

1. 3 周辺公園の需給状況を踏まえた方向性

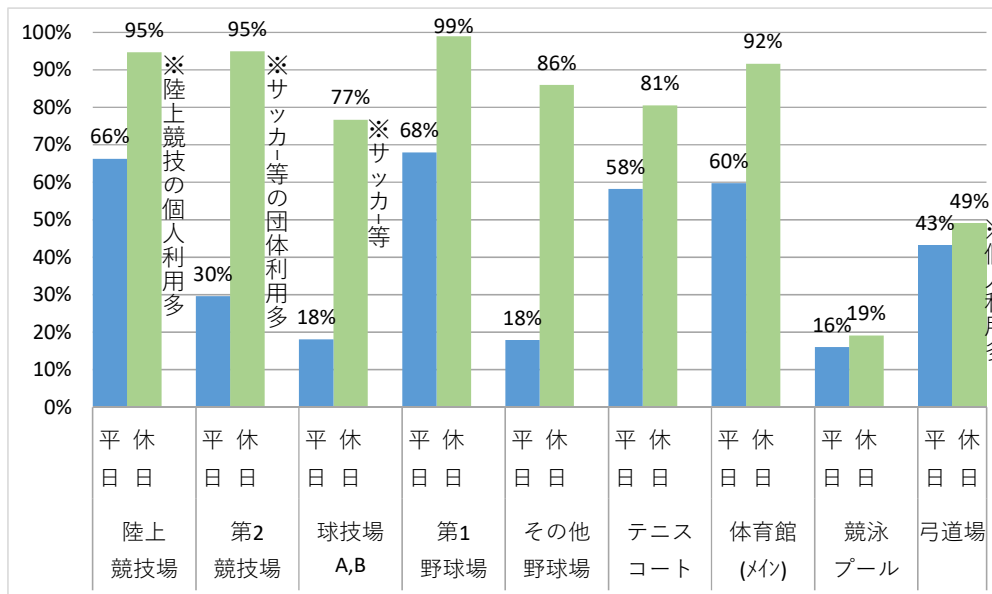
第1回懇話会での意見

この辺りに運動公園が集積しており、各々個別に見るのではなく、全体として供給過多なのか需要過多なのかは分析しておく必要がある。

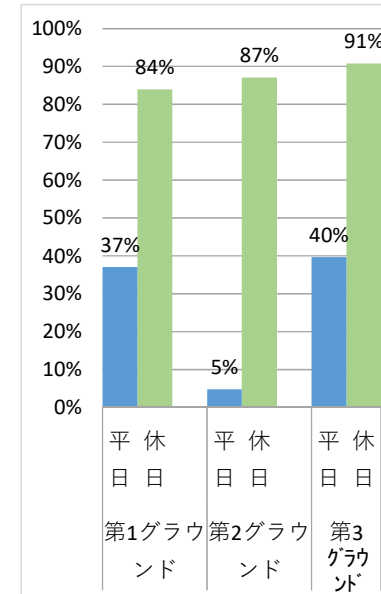


周辺公園の需給状況

- 府立公園に求められる高いスポーツレベルの大会は、毎年11月に他の府内施設を含めて年間利用調整がなされており、定例の記録会や公認大会は開催できている。
- 府立公園の休日の稼働率は、陸上競技場、球技場、野球場、体育館等で特に高い。
- 府立公園の平日の稼働率は、20~60%台となっており、平日休日の稼働率の差が大きい。

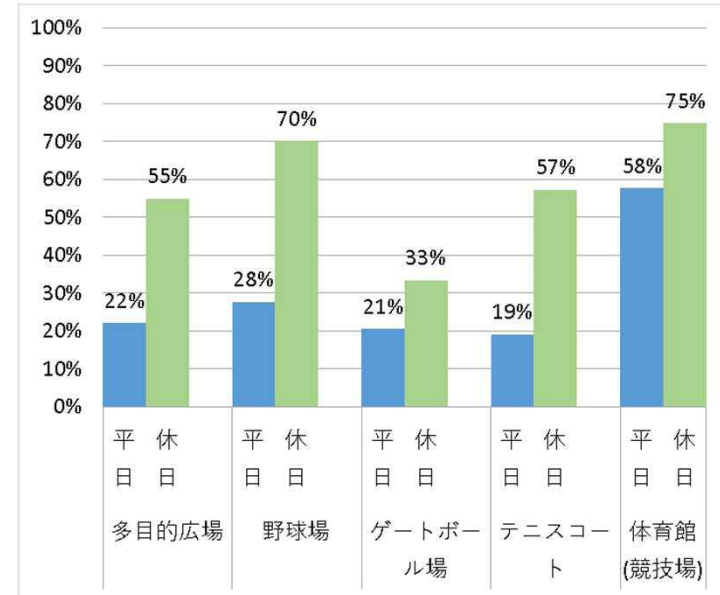


山城総合運動公園の施設稼働率(平成30年度)



府民スポーツ広場の稼働率(平成30年度)

- 城陽市総合運動公園の休日の稼働率は、野球場、体育館（競技場）で70%台となっている。
- 体育館（競技場）及び多目的広場は、ナイター設備があり、平日の夜間利用が見込めるため、平日と休日の稼働率の差が比較的小さくなっている。
- 令和元年6月に、全天候型アウトドア施設（ロゴスランド）が同公園敷地内にグランドオープン。



城陽市総合運動公園の施設稼働率(平成30年度)

### 意見を踏まえた公園の方向性

- 公園集積地で運動施設が多数あり、**需要過多な状況ではない。**
- **高いスポーツレベルの大会は開催できており、需要ニーズに答えている。**
- 休日における周辺施設の稼働率は高いが、**平日と休日の稼働率の差が大きい。**



運動施設を導入する場合は、平日の利用促進も図れる個人や少人数で利用可能な運動施設、ナイター設備を整えた運動施設などを、民間事業者の運営により導入する。

1. 4 公園（南側区域）の利用者や活動団体との連携

第1回懇話会での意見

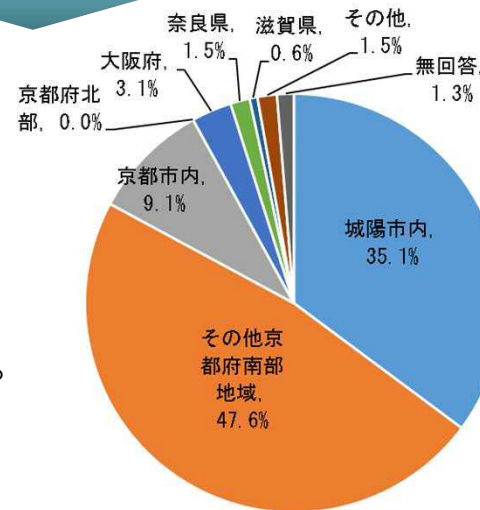
- 南側区域を利用している10万人の利用圏域の情報を知りたい。
- 府民参画でボランティア活動をされている方の情報を知りたい。
- 南側区域の官民連携の民は市民で、北側区域の官民連携の民は産業や企業と割り切りをしているが、企業が市民をサポートしながら全体として公園の価値を上げていくという事例も全国的には結構あるので、少し幅広く見ておいた方が良い。

公園利用者属性

- 木津川運動公園（南側区域）は、城陽市内が約35%、京都府南部地域を含めると80%以上を占める。
- **新名神高速道路**の開通により、現在の府南部地域を中心とした利用者に加えて、**広域利用の拡大**が見込める。

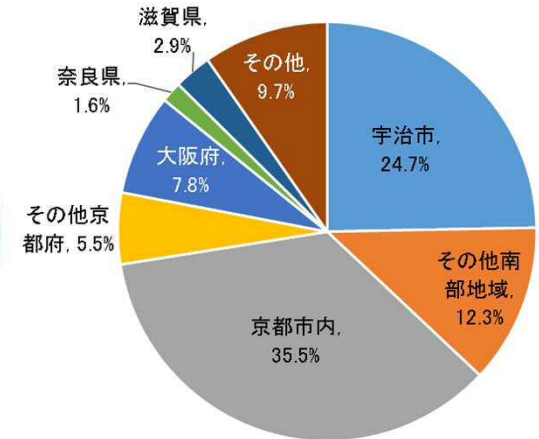
意見を踏まえた公園の方向性

来園頻度の高い近隣利用者と広域的な利用者双方のニーズを両立させることが肝心。



n=865人

木津川運動公園(南側区域) 利用者の居住圏域



n=320人

山城総合運動公園 利用者の居住圏域



## ボランティア活動

- 南側区域では、山城地域の里山風景の再生を目指し、平成18年度より森づくりのボランティア活動を開始。
- 現在の会員は約50人で、月5~6回程度の活動（苗木育成、植樹、植栽管理、環境学習等）。
- 令和元年9月までに約1万本を植樹（内、平成30年度植樹418本）。



## 意見を踏まえた公園の方向性

民間事業者（北側区域の官民連携）と市民・ボランティア団体等との連携により、山砂利採取地であった北側区域の自然再生（園路等の京都府管理区域における植樹・育樹管理等）や、南側区域の再生の森づくり活動を推進する。

木津川運動公園(南側区域)  
平成30年度 再生の森づくり活動人数

|    | 活動人数   | 割合     |
|----|--------|--------|
| 職員 | 93人    | 8.4%   |
| 森守 | 664人   | 59.7%  |
| 一般 | 355人   | 31.9%  |
| 合計 | 1,112人 | 100.0% |



公園南側区域の再生の森づくり活動

## 1. 5 運動や予防医療に関する方向性

## 第1回懇話会での意見

- スポーツと医療をどうつなげるか。特に趣味的スポーツがない市民がウォーキング、ランニング、サイクリングを楽しむ要素を付加し、予防医療につなげていくような方向性があると考えます。

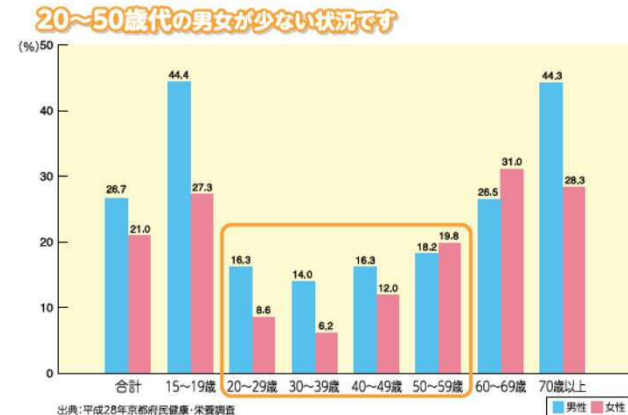
## 京都府民の運動習慣

- 運動習慣がある府民の割合は、男性26.7%、女性21.0%
- 男女とも30歳代がそれぞれ14.0%、6.2%と最も低い

## 意見を踏まえた公園の方向性

オープンスペースや緑の癒しの機能を活用した日常的な運動やスポーツの楽しみに加えて、スポーツインストラクターによる運動指導等により、予防医療に繋ぐことができる公園づくりを推進する。

- パークヨガ、パークフィットネスなど、スポーツインストラクターによる年齢や状態に応じた運動プログラムの提供
- ウォーキング、ランニング、ノルディックウォーキングなど、広場・園路、地形の高低差も活かした多様な運動の場を提供
- ICT技術と運動を連動させた運動量や成果の可視化、ポイントの付与など、運動のきっかけ作りやモチベーションの維持を図る施設やプログラム



1回30分以上の運動を週2日以上実施し、1年以上継続している府民の割合

## 1. 6 ICTやIoTの活用の方向性

## 第1回懇話会での意見

- ITやIoTのハードを使って公園づくりをする場合には、ハードウェアの陳腐化のスピードが速く、行政が負担するイニシャル及びランニングコストの意識をシビアに考えておいた方がよい。



## 意見を踏まえた公園の方向性

ICT等の新技術を活用した**公園施設の魅力向上や情報発信による利用促進を図り**、併せて**公園全体のスマート化や運営維持管理（マネジメント）の効率化**による持続可能な公園マネジメントを推進する。

- VR等を活用したアミューズメントや運動施設の整備
- ICT技術と運動が連動した健康づくり
- ダイレクトメール等による公園の情報発信
- 自動運転車・パーソナルモビリティ、シェアバイク、キャッシュレス化など、公園管理の人材不足やノーマライゼーションに対応した公園運営のスマート化
- モビリティやドローン等を活用した公園管理や点検の効率化



**次世代型の公園づくり** ⇒ **民間から提供される、これからの新しいアイデアを実現していく**

## 1. 7 その他具体的な導入機能に関する意見

- 生活習慣病予防や介護支援の政策と連携した「健康ポイント」の付与
- ノーマライゼーション(車いすの人がスポーツできる場所)
- 雨の日でも遊べる屋根付き施設
- 中学生・高校生が活動できるような公園
- ペットと遊べる施設 (ペット向けコーナー・ドッグラン)
- 子どもの発達を促す仕組みが隠されている公園作り、一般に禁止されている遊具を設置
- ハンモック・テーブル等をレンタル、手ぶらでBBQ、キャンプ、グランピング



今後、サウンディング型市場調査を行った後、公園計画を具体化する中で、導入機能について検討していくものとする。

## 1. 8 ベースとする公園の方向性

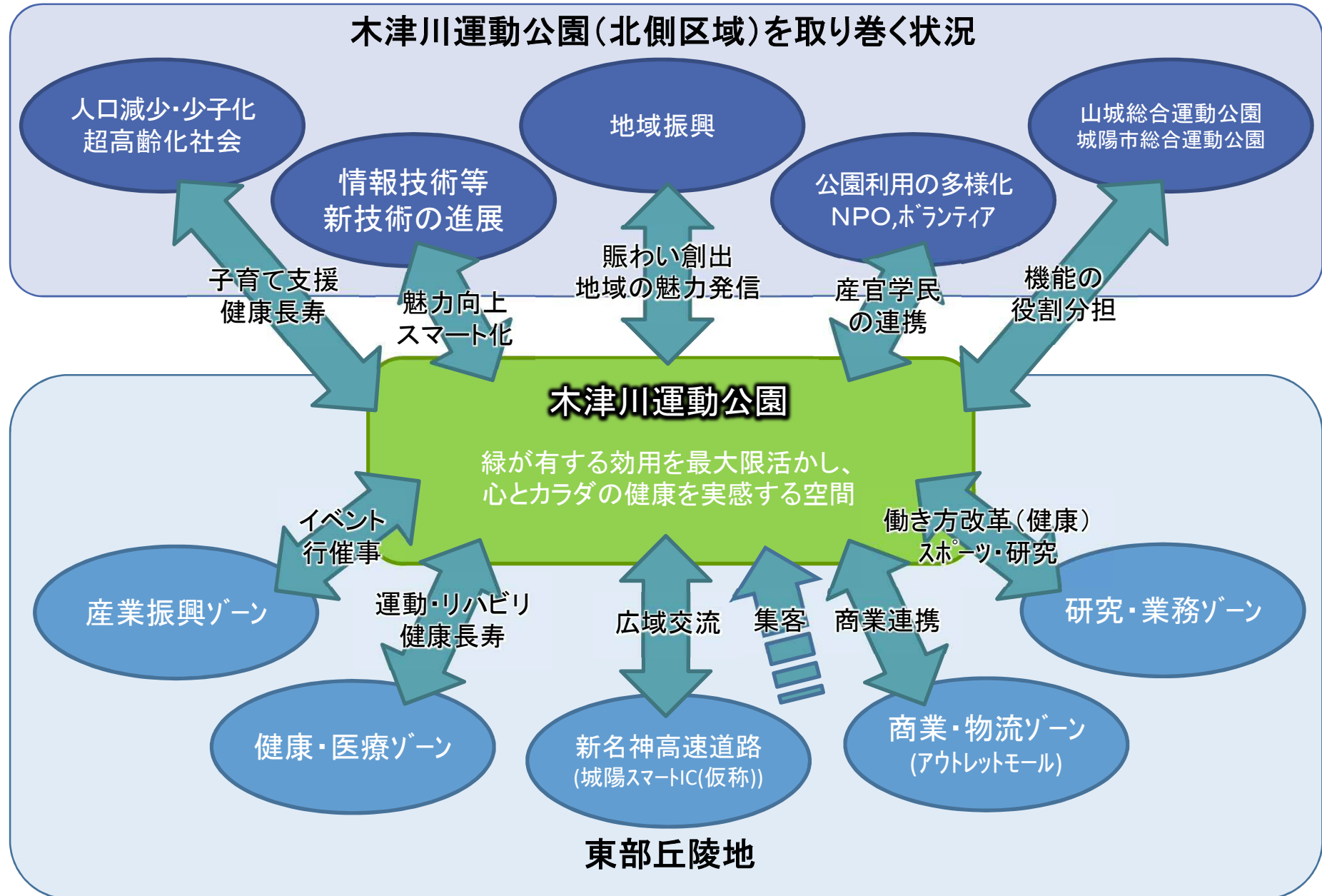
### 第1回懇話会での意見

- まず環境全体としてはパーク、ガーデンで、その中に色々な施設が入ってくるといった視点が欲しい。ベースが山砂利採取跡地の緑の機能回復と緑を生かした公園ではなく、もう少し、環境にやさしいとか生態系の多様性を保有しているとか緑が充実しているとかがベースにあって、その中に色々な機能が入ってくるといったコンセプトにして頂きたいと思う。



### 意見を踏まえた公園の方向性

第1回懇話会意見も踏まえつつ、木津川運動公園を取り巻く様々な環境を踏まえた、環境、経済及び社会性を達成する公園計画見直しの着眼点を次頁に整理した。



木津川運動公園を取り巻く環境を踏まえた計画見直しの着眼点

## 2. 木津川運動公園（北側区域）の方向性（修正案）

### 目指すべき姿

『自然と共生した都市公園において、幅広い府民が“運動”や“体験”を通して、心とカラダの健康を実感する空間を創出する。』

### 方向性

- ・子育て支援、健康長寿、働き方改革（社員の健康）などの都市課題に対応した公園
- ・新名神高速道路のスマートインターチェンジやアウトレットモールに近接する地理的優位性を活かした、賑わいや地域振興に資する公園
- ・緑が充実し、緑を活かした公園（山砂利採取地であった東部丘陵地の自然再生）

### 実現化施策・ツール

- ・質の高いサービスの提供、整備運営の効率化を目指した積極的な民間活力の導入
- ・IoT、AI、VR等の新技術の導入
- ・府民、NPO、大学、地元企業等との地域連携